

3 絹本着色不動明王二童子像 1幅 [有形文化財（絵画）]

[所在地] 吉野郡吉野町大字吉野山 1269 番地

[所有者] 桜本坊

[法 量] 縦 101.4cm 横 62.0cm

[時 代] 平安時代後期

[概 要]

画面中央に岩座に坐す不動明王を描き、左右に2体の童子を配する画像。不動明王は火焰光を背に右手で三鈷剣をとり、左手は膝前に垂下させて羂索を持ち、左を向いて岩座上で左足を踏み下げる。左向きの姿勢や両手の構え方、右手第1指を立てる図像は他に例がなく非常に珍しい。

画面全体に画絹の欠損や彩色の剥落が著しく、一部に補筆も認められるが、エックス線透過撮影によれば不動明王の火焰光や二童子は当初の姿を留めているとみられる。不動や二童子の着衣には色隈を用いて立体感を出し、頭髪や衣文線、臂釧・腕釧、羂索等には金泥線を用いる。弾力のある伸びやかな筆致やおおらかな賦彩、彩色を主体としながらも部分的に箔を用いる技法などから、制作時期は12世紀前半に遡ると考えられる。

軸裏の墨書には、本図が鳥羽法皇の離宮内に造営された宝蔵より出され、永享6年（1434）に僧祐潤が修理を行ったことが記される。祐潤は神護寺聖教にその名がみえることから、本図も神護寺周辺に由緒をもつ可能性がある。本図が吉野山に伝わった経緯は不明だが、県内に残る希少な平安仏画の遺品であり、図像的にも特異な画像として高い価値を有する。

